

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610510087		
法人名	医療法人 藤野会		
事業所名	グループホーム成田		
所在地	徳島県美馬市脇町拝原2573-1		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年1月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・隣接している協力医療機関との医療連携を強化しており、緊急時など迅速かつ適切な医療が受けられる体制が整っています。 ・協力医療機関より、看護師が週1回(状態によっては毎日)訪問してくれており、入居者の状態を把握しており、医療的相談や助言、指導を受けています。 ・協力医療機関の理学療法士又は作業療法士が月1回程度来訪し、生活の中でのリハビリについて指導を受けています。 ・事業所は緑に囲まれた静かな田んぼや住宅の中にあり、玄関を一步出れば季節を感じられる光景が広がっており、圧迫感がなく交通量も少ない安全で澄んだ空気環境の中にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、幹線道路から少し入った、閑静な住宅街に位置している。近隣には、同一法人の運営する医療機関があり、月1回のリハビリ指導や急変時等も24時間対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心に繋がっている。利用者一人ひとりの尊厳や思いを大切に捉え、住み慣れた地域のなかで、“わが家での安心した暮らし”を支援することを理念として掲げている。感染症(コロナ等)の流行下においても、日ごろから散歩に出かけ、近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れを受けたりして、交流を続けている。月1回、身体拘束委員会や安全委員会を開催し、利用者一人ひとりの尊厳や権利を尊重した支援の実践に努めている。食事では、準備から片付けまで利用者と職員が一緒に行い、利用者の意向を取り入れた行事食やおやつを提供している。明るく、広々としたホールには、利用者と一緒に作成した季節の作品を掲示し、家庭的で温かい雰囲気づくりを行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務ミーティングなどで、理念に沿ったケアが出来ているか確認している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員で考えた理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示したり、月1回の職員会議で全職員で確認・共有したりして、意識づけを行い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の理容店を利用しており、入居者も顔なじみになっており、近況報告や昔話で楽しい時間を過ごしている。	事業所では、地域の清掃活動に参加したり、地域住民を招いて、食事会を開催したりして、地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、近隣住民から野菜や果物の差し入れを受けるなどして、交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生の職場体験学習の受け入れや運営推進会議を通じて認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方、行政・消防など各分野の皆様に参加して頂き、貴重な意見をもらいケアの向上に生かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族等、地域住民、市担当者等の出席を得ている。感染症の流行にともない、職員間で話しあった内容を各委員へ報告し、意見をj得ている。出された意見は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月状況報告を行っており、何かあればその都度ご相談やご意見、ご指導頂いている。	職員は、月2、3回、市の担当窓口を訪問した際に、事業所の状況を報告し、情報や助言を得ている。困難事例について相談したり、担当者から入居についての相談を受けたりして、問題の解決に向けた連携体制を整備している。また、電話等でも気軽に相談できる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は除き、フロアの施錠は原則行っていないが入居者の状態によっては、職員が見守りの仕方を工夫したり、ドアにセンサーを設置して、抑圧のないように支援している。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルを作成している。年2回、身体拘束に関する研修や月1回、身体拘束委員会・安全委員会を開催し、職員の理解を深めている。職員は、見守りを重視し、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を年2回開催している。参加出来ない職員も資料を配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度の利用者はいない。職員は成年後見制度の勉強会を開催して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項や事業所の取り組みについて丁寧に説明している。また、不明な点は、随時質問や相談を受けることができるともお伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、利用者の状態報告をしている。その時に、家族の要望や意向・質問などを聞いている。	事業所では、面会時や年2回の家族会で、家族等の意見を聞く機会を設けている。感染症の流行下においては、定期的に利用者の日ごろの様子を伝える、写真入りの便りを送付し、意見や要望を引き出している。出された意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の状態や職員の意見をその都度相談出来る体制を整えている。管理者は利用者の状態や職員の意見や提案を聞き働きやすい環境となるように努めている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員の声に耳を傾けている。月1回の職員会議や年2回の個別面談で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。年1回、ストレスチェックも行っている。職員が代表者に直接意見を伝える機会もある。出された意見や提案は、運営面に反映するなどして、職員一人ひとりの力量を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の能力や個性を理解しており、処遇改善や勤務条件などを考慮して、働きやすい職場環境・条件となるように、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の能力や力量を把握しており、個人の年間目標を達成出来るように支援・助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美馬市のグループホーム連携会議に参加し、現場での取り組みや悩みなどを話し合い、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、不安と混乱が出現することもあるので、穏やかで優しい声掛けを行い、本人の声に傾聴して安心して暮らせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、相談・説明を行っている。入所してから、随時不安や質問事項に対応している。家族との信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で話し合い、利用者の状態に応じて、今できる支援を見極めて適切な対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態に応じて、散歩に出かけたり、手をつないで共にテレビを観たりして第二の家族となるゆっくりとした時間を共に過ごして信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の困ったことなど、包み隠さず家族に相談して共に話し合い、意見や提案を聞いたりして、生活の支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の教え子や友達、近所の方々との交流が途切れることのないように、面会制限時は手紙の交換などの支援をしている。	事業所では、毎月、利用者の馴染みの理・美容院の来訪を受け入れている。感染症の流行下においても、ガラス越しで面会を行ったり、電話のやりとりを支援したりして、馴染みの関係継続を支援している。家族の希望に応じて、動画を撮影するなど、工夫しつつ、支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流がスムーズになるように、利用者の性格などを考慮してトラブルを未然に防いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族や利用者の関係を大切にしており、訪問や相談も適宜対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とともに生活する中で、見えてきた好きなもの嫌いなものを把握して、利用者が望むことの実現に向けて努力している。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、会話や表情に注目し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な場合には、家族等に意見を聞いたり、日ごろの行動等を観察するなどして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身や家族や前施設などから、情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活のリズムや状態、体力に合わせた、残存機能を生かした支援が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の課題を職員間で話し合い、必要なケアの方法を家族や主治医や看護師理学療法士などからも意見をもらっている。	事業所では、利用者や家族等、医師、関係者で話しあい、その人らしく暮らし続けるための介護計画を作成している。3か月に1回、モニタリングと見直しを行っている。利用者の心身状況の変化に応じた見直しも行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中でのちょっとした変化を、介護記録に記載し、職員間で情報共有し安全で安心した生活となるように介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の要望を聞いて、その時代に合わせた支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔馴染みのお菓子屋や理容店を利用し、自宅でなくても安心して快適な生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、利用者や家族の要望を聞いて、馴染みの医療機関を受診出来る体制を整えています。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医での受診を支援している。総合病院や専門他科の受診は、家族等の協力を得ている。協力医療機関と24時間対応可能な体制を整え、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が訪問や電話での対応を支援してくれている。利用者の状態に応じて、適切な医療処置が受けれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師が利用者の状態に応じて、適切な医療処置を行っている。入退院の対応も速やかに出来る連携が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、入居時に同意書や看取りの指針を渡して説明している。その都度、主治医や看護師、家族と話し合い、職員全員で利用者を支える努力をしている。	事業所は、看取りの指針を整備している。入居時の段階で、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を確認している。かかりつけ医等の関係者と対応方針の共有化を図り、本人や家族等の意向にそえるよう、チームで支援に取り組んでいる。年1回、看取りや緊急時対応の勉強会を開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関が24時間体制で対応してくれている。また、緊急時の対応については、勉強会を開催したり、マニュアルを確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の訓練や事業所でも防災訓練を実施している。豪雨や水害被害に備えて、階上への訓練も消防署員が来訪して指導してくれている。	年2回、消防署や地域住民の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。加えて、シェイクアウト訓練や炊き出し訓練も行っている。災害マニュアルを整備し、災害時に備えているが、管理者は、利用者一人ひとりにあわせた備蓄品の準備を検討している。	今後は、炊き出し訓練などを繰り返し行うことで、利用者一人ひとりにあった備蓄品の形状や嗜好を調査し、利用者にとって、より良い備蓄品の整備につながることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩方として、尊厳と権利を守ることが大切にしなが、自尊心を気づけけないように留意している。プライバシーの確保や尊重する意味を勉強会などで再確認している。	職員は、利用者一人ひとりの性格や習慣、思い等の尊重に努めている。利用者の自尊心を傷つけないように、一人ひとりに合わせた、さりげない声かけに努めている。年1回、プライバシー保護等に関する研修会を開催し、職員間で意識の統一を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすい雰囲気を作り、努めて、生活の中で自己選択や自己決定出来るように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムやペースを尊重している。共同生活しながら、プライバシーな生活・一人になりたい生活も支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナの関係で、外出が減ったが診察や事業所の行事・誕生会など、お化粧品や服装、帽子、アクセサリーなどのおしゃれして参加してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事は、利用者の要望を聞いて準備し、楽しみなものになるように支援している。利用者の力量に応じてお手伝いも積極的に行っている。	食事は、法人の医療機関の管理栄養士が立てた献立をもとに提供している。誕生日や行事の際に、利用者の好みの食事を提供したり、おやつを手づくりしたりして、食事を楽しむことができるよう支援している。また、皮むきや食器洗い、台拭きなどは、利用者と職員と一緒に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて、固定概念にとらわれずその方の好きな飲み物を用意したり、栄養補給の飲み物を用意したり、工夫して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。抵抗がある方は無理強いせずに、時間をかけてうがいだけでも良しとする職員の余裕をもった対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所が分からない利用者は、その方の表情や行動、排泄パターンを観察して、スムーズに気持ち良くトイレ誘導出来るように支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけで、トイレへ誘導している。日中・夜間ともに、利用者の状況に応じて、可能な限りトイレでの排泄を支援し、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や食事面、運動などを考慮して、便秘とならない工夫を支援している。3日排便が確実でない場合は、下剤や看護師・医師に相談して対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けをして決定している。利用者の体調に応じて無理のない気持ち良いくつろいだ時間となるように、時間も気にせずゆっくりとした利用者のペースで入浴をしている。	事業所では、少なくとも週2～3回の入浴ができるよう支援している。利用者が羞恥心や不安感を感じることはないよう、希望に応じて同性介助を行っている。入浴を拒む利用者には、声かけの工夫や気分転換を行い、無理強いすることなく、入浴を支援している。季節に応じて、ゆず湯等を行い、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕暮れ症候群や帰宅願望がある利用者は、生活の活動量を増やしたり、生活のリズムを見直し、検討して、良質な睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報より、利用者の内服薬の管理を行っている。必要に応じて服薬介助を支援している。新しい薬については、経過を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の性格や特徴、経験を生かして、掲示板の絵を描いてもらったり、行事の飾り付けをお願いしたり、縫い物をお願いしたりとそれぞれの役割分担を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のそれぞれの要望を聞き、職員が支援できない場合は、家族に相談、検討している。散歩などは、状態に応じてその都度、対応している。	事業所では、年間計画や月間計画を作成し、日常的に外出を支援している。感染症の流行下においては、利用者一人ひとりの心身状況にあわせて、近隣の散歩や花見等を支援している。また、屋内でのレクリエーションの充実を図り、事業所のなかでも楽しみをもって過ごすことができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と利用者と相談して決定している。必要なもの欲しいものを購入したり、移動販売車の利用も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	残存機能を活かして、家族に手紙を書いてもらっている。要望に応じて、電話での対応も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを利用者と共に作成して飾っている。生け花や観葉植物なども利用者が水をあげたりして、枯れないように気を配っている。その時に合わせて、好きな音楽をかけたり心地よい空間を過ごせるように支援している。	共用空間は、明るく、清掃が行き届き、清潔感がある。利用者と一緒に作成した季節の作品や生け花、観葉植物などを飾り、季節感や温かみのある空間づくりに取り組んでいる。利用者の安全面に配慮して、家具等の配置も工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で、気の合う利用者やテレビを観たり、自室で話をしたり、お菓子を食べたりして、自由に過ごしている。職員は、所在確認をして心地よく生活出来るように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は、利用者と家族が相談して使い慣れたもの或いは、使い易いもの、居心地のいい物を設置している。写真や本、人形など好きな物に囲まれたお部屋になる支援をしている。	居室には、利用者一人ひとりの馴染みの家具や調度品、思い出の写真等を持ち込んでもらっている。利用者が歩行しやすいように、家具の配置を工夫するなど、安心・安全で居心地のいい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて、歩行器や杖歩行などを利用して歩く支援をしている。転倒させないではなく、転倒しても最小限に抑える自立した生活を送れるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員の目の届く所に提示しており、いつも確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の理容店を利用している。また、行きなれた美容室の方に来訪してもらい、長年のお付き合いが、途切れないように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所の食事会に、地域の方々も参加してもらい、入居者とのふれあいの中で事業所の取り組みや実情を知ってもらい、ご理解やご意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で消防の方に意見交換を行っている。必要時に、防災訓練のご意見や指導を受けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の窓口を訪れて、ご意見やご指導を受けている。また、疑問点などその都度、解決できるように、電話などでもお聞きして、指導助言をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は、行っていない。やむを得ない場合は、ご家族と話し合い最小限で済むように取り組んだり、同意書ももらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の職場環境改善やアンガーマネジメント等の勉強会を開催して、職員自身の精神安定やストレス発散方法を学び虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回勉強会を開催している。対象者が入所しても安心して過ごしてもらえるように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明しているが、入所後もその都度心配事や疑問点などその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、意見箱を設置しており、その都度苦情等の受付・相談や面談を行っている。出来るだけご家族やご本人の要望にお応え出来る様、努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、悩みや相談などがある職員に対して、その都度面談している。職員が働きやすい環境を整える努力をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員一人ひとりの能力に応じた年間目標を提示してもらい、処遇改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力や意欲的な職員には、資格取得や研修など参加してもらい、積極的に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連携会議に出席し、問題点や取り組みなどの情報提供、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の環境の変化に、戸惑いがあることで、心配や不安を取り除けるように、穏やかで優しい対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族の思いや意向を伺っている。ご家族の思いに応えるよう、また信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族にとって、今必要な支援は何かをよく話し合いケースバイケースで、柔軟なサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対して、人生の先輩として尊敬し、また共に過ごす第2の家族として親しみやすい関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、利用者の現状報告をし、利用者の問題点を話し合い共に安心して生活出来る様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医等、馴染みの店、美容室など、ご家族のご協力を得て関係が切れることのないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や身体レベルが違って、席順など考慮して、音楽会や運動会など共に楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方やご家族が、相談や遊びに来訪するなどの友好関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望をその都度、傾聴し出来る限り要望をにこえるよう努めている。コミュニケーションが困難な方は、共に生活する中で、好きなことなどよく観察して把握出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人、ケアマネジャー、前病院などから情報を収集して、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態や性格などを見極めて、生け花、裁縫、折り紙などその方にあった生活を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や利用者からの意向や要望を聞き、また看護師や理学療法士などそれぞれの意見交換も行い、現状に必要な介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテや業務日誌・夜勤日誌などに、日々の状態、言動や変化を記録し、職員間でもミーティングを行いケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの関係で、面会や外出が制限されている中で、施設での生活の写真や行事、誕生日などの写真を送ったり、電話対応なども適宜行っています。携帯電話での動画なども要望があれば、その都度、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近郊の理容店や美容室、美容品店、移動販売車など、その方に合わせた支援が出来るように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、これまでかかっていた専門医の受診など、家族の協力のもと継続して受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と医療連携しており、入居者の状態の報告や相談・助言指導も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との医療連携で、入居者の健康管理を行っている。入院されても主治医や看護師と情報交換し退院計画を話し合い再入所出来る体制を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関とは24時間体制が整っており、早い段階で主治医の診察や検査の対応が出来ている。また、家族との話し合いの中で終末期での対応を相談しながら、職員全員で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関とは24時間体制で急変や事故発生時に備えている。また、急変時の勉強会も年1回開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で年2回、事業所でも年2回の防災訓練を実施している。年1回は消防署員の方に指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、こちらもおばあちゃんの知恵を聞き教えてもらいながら、声掛けをしている。また、入浴やトイレ、オムツ交換などプライバシーに配慮した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	優しく穏やかな雰囲気作りを心がけている。その中で利用者の思いや好きなことを汲み取り、安心した暮らしが出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で決まりに捉われない、その人に合ったケアが出来るように個別ケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今年はコロナの関係で、外出が制限されたが事業所内での行事、誕生会、診察に出掛けるなど、身だしなみや帽子、アクセサリなどでおしゃれして参加している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態もその人に合った物を提供している。またアレルギーはもちろんや好き嫌いを把握している。おしぼり畳み、茶葉入れなど出来ることは、積極的にお手伝いしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立で食事提供している。水分補給の確保も利用者の好みや量を調節して、体重管理も毎月行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや口腔ケアを行っている。義歯の方は、夕食後ポリドントの洗浄を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子であっても、その方の意欲や状態に合わせてトイレ誘導、ケアを行っている。安全性や安眠を考慮して夜間はオムツを使用する場合もあるが、利用者と相談して決定している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の管理を毎日確認している。便秘気味の方は、特に水分補給や食事に気を付けている。必要時に、主治医や看護師に相談して下剤や浣腸の処置をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日支援しており、声掛けをして無理強いせずに対応している。決まりに捉われない利用者に合わせた、柔軟な対応を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が起こらないように、日中は日光を浴びて、活動量を増やして自然な睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態に合わせて、服薬確認を行っている。薬剤師より薬の情報提供をもらっており、薬の内容や副作用も理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でのお手伝いは勿論、行事の飾り付けの準備や毎月のカレンダー作りも利用者の力量に合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、コロナの関係で外出が制限されたが家族の協力のもと、散歩など短時間で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット「藍」	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		利用者とは相談しながら、お金を所持して好きなものを購入されている。事業所でも管理しており、必要なものを購入している。預り金の使用については、毎月領収書と共にお知らせしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		利用者に合わせて、遠方の家族に電話支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		共有空間の照明や空調管理、換気に気を配っている。季節を感じてもらえるように飾り付けを季節ごとに変えたり、観葉植物を配置して心地よい場となる工夫を凝らしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		共有スペースだけでなく、自室やテレビ前にソファに腰掛けて一人や2～3人になれる場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		居室は、個人の使い慣れた家具や使い易い物を配置しています。ソファやテレビなど利用者の好きな絵や写真・人形・お菓子など、好きな部屋に作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		利用者に合わせて、歩行器やシルバーカーなどを利用している。転倒のリスクが高い方は、センサーマットなどを設置し、行動制限せずに職員がすぐ駆けつけて対応出来るように支援している。		